

ワークショップ進行シート

作成日： 2016 年 8 月 1 日

タイトル： MAJORITY ~What is a world gap?~

ファシリテーター（グループ）：釣巻朱里、新田真由佳、梅田紘花、遠藤千菜見、嶋田美季、中野柚佳、山口莉穂、山田絵莉、江端美雪、平原聖紀

**1：本ワークショップの要旨**

世界には、言語、食糧、所得などさまざまな格差が存在する。本ワークショップでは、「世界がもし 100 人の村だったら」を題材とし、シミュレーションゲームを通してマジョリティやマイノリティを体験してもらう。そこで、同じ立場を経験した人と自分の気持ちを共有し、また自分とは異なる立場を経験した人とは、共生していくために取るべき行動を考えてもらう。そして、世界の格差をなくすためにできることを考えてもらう。

There are various gaps in the world, for example, languages, foods and incomes. In this workshop, we pick up on “If the world were a village of 100 people”. We would like the students to experience the feelings of majority and minority through simulation games. Students talk about how they felt in their position with the students who had same experience. Moreover, students who had various experiences gather and they will talk about what they should do to live equally each other. In addition, they will think about gaps in the world.

**2：本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)**

1. 世界にはさまざまな格差があるということを理解する。
2. マジョリティやマイノリティを実際に体験し、同じ立場の人と考えを共有する。
3. 自分とは異なる立場の人と共生していくために取るべき行動を考える。

**3：本トピックをとりあげる理由**

世界にはさまざまな格差が存在している。その格差によってマジョリティの立場の人、マイノリティの立場の人が生まれる。日本に住んでいる私たちは日常で感じることの少ないことだが、実際に世界でこのような格差が存在していることを理解し、マジョリティの人とマイノリティの人が共生していくために必要なことを考える。したがって、本ワークショップではシミュレーションゲームを通してマジョリティとマイノリティを体験する活動を含んでいる。また、クイズを通して世界の格差について学び考える活動も行う。

## 4 : 活動過程

(使用時間 : 90 分 (休憩 10 分を含む))

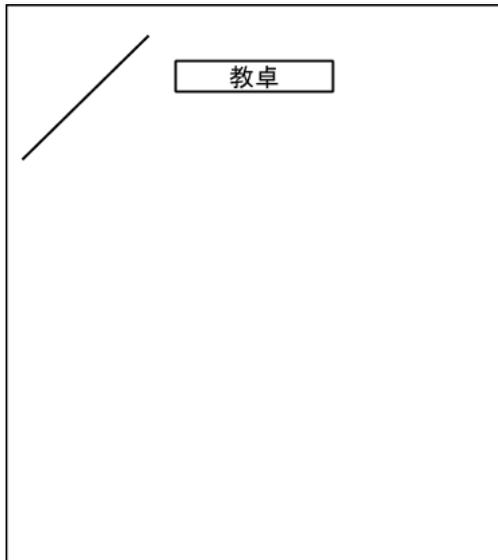
参加人数 : \_\_\_\_\_)

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・説明・動きなど	ねらい	使用する教材 ・ 備品	予想される反応. その他, 注意事項
導入 : 起 (15分)	・ <アイスブレイキング> クラスで 100 人村をつくる。	① ○×形式の質問 (男女、利き手、視力など) を出して 2 つのグループに分かれてもらい、それぞれの人数の割合を出す。(右利き 90%、左利き 10%など) ② 出した割合を表にまとめる。(クラスの 100 人村を作る) ③ 世界の 100 人村、日本の 100 人村、クラスで作った 100 人村を比べる。	・ 参加者の緊張をほぐす ・	・ 世界の 100 人村、日本の 100 人村の表 ・ ペン ・ 模造紙	クラスの中に差異があることに楽しみながら気付く。
展開① : 承 (20分)	(識字率の説明) ① 役割カードを配る。 ② 同じカードの人とグループになる。 ③ 買い物に行く。買うものはファシリテーターが指示をする。 ④ 現時点での感想を言い合う。	(小学生の場合、識字率の説明を入れる) ① 言語、所得、国の識字率などが書かれた役割カードを配る。(言語、識字率、所得が異なる仕掛けがある) ここで取り扱う国は多民族国家である。 ② 言語によってグループの人数は異なる。(A 語は 2 班、B 語は 1 班など) ③ 金額と商品名が書かれたカードを用意する。役割カードの識字率によって商品を買うときに困難が生じる仕掛けがある。	・ 世界の格差を体験してもらう。 ・ 識字率や所得によって買い物の際に困難が生じるということを理解してもらう。	・ 役割カード ・ 買い物カード ・ 感想を書く紙 ・ ペン	「他の班と比べると買えるものが違う。」  「自分たちの班は他の班より買い物できた商品が少ない。」  「なぜ少ないのだろう。」 「たくさん買ったグループが羨ましい。」

<p>展開②：承 (15分)</p>	<p>① 班をシャッフルする。 ②前の班の感想を共有する。 →自分の班の状況と他の班の状況を比べる。 ③ 質問項目を与えてそれについて考えてもらう。 ④全体で共有する。</p>	<p>① 自分の班と他の班の状況を比べるために班をシャッフルする。 ③質問項目は個人の感想で終わらないような仕掛けがある。</p>	<p>・いろいろな立場のカードの人の意見を聞いて考えを深める</p>	<p>・質問項目を書いた紙 ・考えたことを書く紙 ・ペン</p>	<p>「自分たちの班はたくさんの物を買えたけどあまり買えなかった班もあるのか。」  「自分が本当にこのような立場だったらどうしよう。」</p>
<p>休憩 (10分)</p>					
<p>発展：転 (15分)</p>	<p>MAJONORITYの説明 ①100人村のクイズを出す。 ②答え合わせをして世界の識字率、所得、言語、食糧などの世界の不平等問題を紹介する。</p>	<p>MAJORITYとMINORITYを組み合わせた言葉であることを説明する。例として識字率を使う。 (majority→字が読める人 minority→字が読めない人) ①最初に識字率などの表を見せ、何の表なのか考えてもらう。</p>	<p>・世界の不平等問題を知る。</p>	<p>・世界のさまざまな割合が書かれた表</p>	<p>「MAJONORITYの意味はmajorityとminorityを合わせた言葉なのか。」  「世界にはいろいろな不平等な問題がある。初めて知った。」</p>

<p>まとめ : 結 (15分)</p>	<p>①MAJORITY についてまとめる。 ②WS を受けての感想・考えたことを共有する。 ③まとめ ④「世界がもし 100 人の村だったら」の本を紹介する。</p>	<p>①識字率と所得が関連しているというレクチャーをする。 ③考えたことに基づいてまとめる。</p>	<p>・世界の格差を考える。</p>		<p>「識字率と所得は関係しているのか。」  「世界の不平等問題を知ることができてよい機会になった。」  「minority の人たちの意見も聞いたほうが良いのだ。」</p>
--------------------------	--	--	--------------------	--	---

#### 5 : 会場のセッティング



#### 6 : 使用する教材

紙、模造紙、ペン、ネームカード、役割カード、買い物カード

#### 7 : 参考にした資料

池田香代子・Lummis, Charles Douglas (2001) 『世界がもし 100 人の村だったら』マガジンハウス

#### 8 : その他